

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900342
法人名	特定非営利活動法人 咲風会
事業所名	グループホーム空
所在地	徳島県三好市池田町白地ウマバ456-1 (電話) 0883-74-1010

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 16 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 22 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	14 人
常勤:6人、非常勤:4人、常勤換算:15人	23人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		-	円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 22 日現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北條病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市街地から約10キロ離れた山間部に位置し、整備された道路や畑、小高い平野などに囲まれた集落の中心地にある。また見晴らしの良い自然に囲まれ、ゆったりと落ち着ける場所となっている。毎日のように利用者の親類や知り合い、近隣住民などの来訪があり、季節の野菜をいただくこともある。台風の時に近くの一人暮らしの方がホームに避難することがあるなど、地域と支えあう関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「食事を楽しむことのできる支援」については、改善されている。「評価の意義の理解と活用」については、外部評価結果をコピーし、全職員で読み話し合っている。「運営推進会議を活かした取り組み」については、開催されていない。「栄養摂取や水分確保の支援」については、食事摂取量や栄養バランスなど専門職によるアドバイス等についての改善はできていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と一部職員が話し合い検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、設置・開催されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来訪された時や電話連絡の時などに意見や要望など聞き、記録をとりホーム内で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会には毎回管理者が出席し、行事への参加や協力をしている。ホームの行事には地域の方も参加し、一緒にお茶を飲むなどしている。地域の方から野菜をもらったり、一人暮らしの方に台風などの不安な時にホームを避難場所として活用してもらったり、日頃から双方向の交流がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との繋がりや地域で生活することを踏まえた独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についての管理者の考えや、取り組みについてミーティングで話し合い、全職員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会には毎回管理者が出席し、行事への参加や協力をしている。ホームの行事には地域の方も参加し、一緒にお茶を飲むなどしている。地域の方から野菜をもらったり、一人暮らしの方に台風などの不安な時にホームを避難場所として活用してもらうなど、日頃から双方向の交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果については、コピーして改善について全職員で話し合っている。今回の自己評価については管理者と一部職員で話し合っているが、全職員の参加と全項目についての話し合いが行われていない。	○	自己評価については全職員で取り組み、サービスの質の向上に活かすことができるよう全項目について検討されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、設置・開催されていない。	○	運営推進会議を設置し、2か月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者はよく利用者の出身町村にも出かけ、情報をもったり市の担当者とも交流を持ち事業所の運営やサービスについて意見交換をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に生活の状況や、行事の写真など利用者の様子を伝えている。家族の状況にあわせ世帯を訪問したり、電話連絡したりして、個々にあわせた報告を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪したときはゆっくりと話したり、状況報告の時などに意見などを聞いている。意見等は記録に残し全職員や関係者で検討を重ね、運営やサービスに反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係による支援の継続を考え、職員の勤務の仕方を工夫し、利用者のニーズに合わせた方法を相談しあい、不安を与えないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員に取得した情報をコピーして配付するなどしている。外部研修に参加した際は、資料を回覧したり、ミーティングで報告したりして全職員で情報を共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者や関係者と会議などで同席した際に、意見交流や相談などしている。職員の一斉交換研修の実施の機会を設けるなどしてサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や関係者と連携を取りながら、事前に見学をしてもらったり、体験利用をしてもらうなど、その人に合わせた支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日を一緒に和やかに過ごすことを考え、ゆっくりと昔の暮らしや遊びを教えてもらいながら支えあう生活を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりとそばで寄り添うことを大切にし、話したり、触れたり、声かけをしたり、家族から話を聞くなどして思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や思いを聞き、職員と話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わりの中での気づきや状態の変化を基に、家族や関係者で話し合い介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて外出や通院、自宅訪問の支援を行っている。空き部屋を利用して、緊急な方の一時預かりのサービスなど事業所の機能を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は事業所の協力医の訪問診療を月2回受診している。本人や家族の希望するかかりつけ医とも連携を持ち適切な医療支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けて早い段階から相談し、事業所としての統一した考えを持ち、利用者や家族の希望にそって関係者と話し合い、方針を共有している。これまでに複数の方の看取りも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護、秘密保持の徹底について明文化している。日頃の関わりの中での言葉かけや対応については職員間で徹底を図りながら利用者の誇りに配慮した対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと寄りそって声を掛け、一人ひとりのニーズを大切にその日その時の思いにそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は旬の野菜や料理の仕方などの話しをしながら、和やかに楽しんでいる。食事の全介助を必要とする利用者が多く、職員と一緒に食べることは難しいが、準備や片付けなどできることは一緒に行っている。食事の形態にも工夫し、自分の力で食べ、喜びを得られるよう根気よく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも楽しめるよう支援している。利用者の希望にそって毎日入浴でき、拒む人には清拭などの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の部屋やフロアの掃除、布団干し、庭の草取りなど利用者ができることを楽しみながらできるよう支援している。字を書くのが得意な利用者には、持ち物に名前を書いてもらうなど、できることを活かして生活を楽しむ支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、戸外での食事、日々の散歩など、利用者一人ひとりの体力や体調に合わせ、希望にそった外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のほか数箇所の出入り口は、日中はどこも施錠してなく、自由に出入りができるようになっている。職員は利用者の行動に注意し、側に寄りそって見守り、気分転換を図ったり、地域の方にも協力を仰いだりして鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に1回実施している。防災マニュアルや連絡網に地域の方の協力も記入している。避難経路を日々の散歩時に確認し、対応や介助の仕方などを話し合っている。しかし、夜間の災害対策や訓練の繰り返し、訓練記録の整備等が十分ではない。	○	災害対策については、夜間を想定した避難訓練を実施し、記録の整備・保存が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の確保に配慮し、医師の受診時に報告している。しかし、栄養バランスや摂取量などについて専門家によるアドバイスが受けられていない。	○	栄養バランスや摂取量などは、専門家の協力が得られるよう取り組むことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に写真やテレビを置いたり、玄関周辺に机と椅子を設置したりしてゆったりと過ごせる場所をつくっている。花や季節に応じて着せ替える子どもの等身大の人形を置き、利用者の心を和ませている。庭には木で作られた机やベンチを複数置き、自由に出て居心地よく過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や飾り物、テレビなどを持ち込み、一人ひとりに合わせた使い勝手が良く、居心地のよい居室となっている。		